

成城学園創立100周年成城大学文芸学部

公開レクチャーコンサート



歴史に現代の 響きを聴く

—18世紀におけるオーボエと鍵盤楽器の変遷—

2016年10月29日[土] 14:00開場 / 14:30開演
成城大学7号館007教室

三宮正満(オーボエ)

平井千絵(フォルテピアノ)

重岡麻衣(チェンバロ)

アンサンブル・ヴィンサンツ(管弦楽)

コーディネーター

赤堀健太郎(文芸学部准教授)

演奏曲 J.S. バッハ

教全カンタータ第156番より「シンフォニア」
オーボエデモーレ協奏曲(イ長調 BWV1055)
チャンバロ協奏曲ニ短調 BWV1069

W.A. モーツアルト

オーボエ協奏曲ハ長調 KV314
ピアノ協奏曲第9番変ホ長調 KV271

◆詳細・参加申し込み先 ◆参加費無料

成城学園100周年記念サイト <http://www.seijo100th.info> / または「成城学園100周年」で検索

成城学園事務局の場合は、料金を支払うことがあります。

ご質問いただけますには、成城100周年までご連絡をお送りいたします。お問い合わせ: 成城大学文芸学部 Tel. 03-3482-9412



歴史に現代の響きを聴く

開催のねらい

過去の音楽作品を演奏する際に、作曲された当時の楽器（いわゆるオリジナル楽器）や奏法を参考にすることは、今は空想したことではなくなりました。歴史的な楽器の研究は、近年、大きな進展を見せています。しかし、歴史に耳をしましたところで、何も聞こえではきません。残された過去の楽器や資料、楽曲から実際の鳴り響きを生み出すのは、あくまで現代の音楽家の役割であり、その君は常に更新されなければならぬでしょう。

このレクチャーコンサートでは、我が国を代表するオーボエと鍵盤楽器のオリジナル楽器演奏家をお招きし、楽器やその奏法のレクチャーと一緒に、18世紀の協奏曲の演奏を行います。それにより、楽器の研究を通じて歴史に向き合うことが、現在における音楽の喜びに大きく寄与するものであることを確認したいと思います。

出演



三宮正満
(オーボエ)

1971年埼玉生まれ。中学時代、パロディ・オーボエのセッションで魅了され、本間正史氏に師事。その後、モゼン・オーボエを本間正史、吉川行蔵、鶴崎伸三の各氏に師事。武蔵野音大卒業後、在学中より演奏活動を始め、数々のオーケストラで演奏。アンサンブル「ラ・ファンタジース」のメンバーとして初演、古楽コンクール「山陰」最優秀賞、2000年、ブルージュ国際古楽コンクール第3位受賞。2008年より田村次郎氏と共にオーボエ制作をおこなっている。2014年ソロアルバム「世界紀バッハのオーボエ作品集」を《ファンタジー》よりリリース。現在「バッハ・コレギウム・ジャパン」と「クラシカル・プレイヤーズ東京」首席オーボエ奏者。「アンサンブル・ヴィンセント」主宰。東京藝術大学古楽専修講師。

アンサンブル・ヴィンセント

古楽器を用いる日本の室内合奏団。2004年にオーボエ奏者三宮正満により結成。バッハ、ヴィヴァルディ、ヘンデル隠れのバロック楽曲を中心とした演奏である。NHK-EBS「クラシック世界圖鑑」に出演。

オーボエ：三森綾香、篠原由桂、ヴィオラ：遠藤安美子
オルガン：喜田麻理恵、伴野玲介、チュロ：西澤亮子
ヴァイオリン：堀内由紀、青海史帆、コントラバス：細岡典範

◆シンポジウムの詳細・参加申し込み先　※参加費無料

成城学園100周年記念サイト

<http://www.seijo100th.info/>
または「成城学園100周年」で検索

平井千絵（フルティピアノ）



獨創学園大学ピアノ科卒業。ラング立派助賞得主。文化庁在外研修助成員として渡米。デンマーク王室正官樂院弦楽四重奏科修士課程を修業。対話式音楽教育で卒業。渡加田ブルージュ国際古楽コンクールでは審査員。現直はスタンダード・カルチャーランドとの4季連続のデュオ活動のほか、ソロ、アンサンブル等、ヨーロッパ各地、及び日本において積極的な活動を続けています。チャリティ演奏会を開催したメンタルヘルス・ローン作品のCDは、平成28年度文化庁若手研修奨励賞を受賞しています。

重岡麻衣（ヤンパロ）



東京藝術大学古楽系チュンパンラffe選抜卒業。同大学弦楽科フォルテピアノ准教授。ブルックナー室内合奏團に在籍。ブーム・ペリエ・ヨーロッパ国際古楽コンクール入賞。チャーリー・フォルテゼアノ・オルガンの通奏低音奏者として国内外のアンサンブルに多数参加。2013年までベルギー・アントワープ正直音楽院にて、卒業後は東京を中心にソロ、室内楽奏者として活動している。

ゴーディネーター

赤塚健太郎（成城大学文芸学部准教授・音楽学）

成城大学大学院文学研究科にて音楽学を学ぶ。博士（文学）。主な研究領域は、バロック時代の舞踏と舞踊について、またバロック芭劇の音楽面について。

◆お問い合わせ・参加申し込み先

成城学園100周年記念サイト

TEL 03-3482-9412

成城学園創立 100 周年 成城大学大芸術部 公開レクチャーコンサート

歴史に現代の響きを聴く

—18世紀におけるオーボエと鍵盤楽器の交遇—

平成 28 年 10 月 29 日 (土) 14:30 開演 成城大学 007 教室

プログラム	
14:30	開演 学部長挨拶・趣旨説明・演奏者の紹介
	J.S. バッハ作曲 カンタータ第 156 番 「わが片足はすでに 墓穴の中にあり」BWV156 より シンフォニア
	J.S. バッハ作曲 オーボエ・ダモーレ協奏曲 イ長調 BWV1055
	J.S. バッハ作曲 チュンバロ協奏曲 ニ短調 BWV1059
15:25	休憩 (15 分)
15:40	W.A. モーツアルト作曲 ピアノ協奏曲 第 9 番 変ホ長調 KV271 「ジュノーム」
	W.A. モーツアルト作曲 オーボエ協奏曲 ハ長調 KV314
	アフター・トーク
17:00	終演 学長挨拶

解説

J.S. バッハ作曲 カンタータ第 156 番

「わが片足はすでに 基穴の中にあり」BWV156 より シンフォニア

Adagio

1729 年作曲、教会カンタータ「わが片足はすでに 基穴の中にあり」の冒頭に置かれたシンフォニア。のちにチェンバロ協奏曲へ転用 BWV1056 の第 2 楽章にも転用されている。1965 年の映画「恋するガリア」の中でも使われた。シンプルながらもとても心に残る名旋律。

J.S. バッハ作曲 オーボエ・ダモーレ協奏曲 イ長調 BWV1055

Allegro · Larghetto · Allegro ma non tanto

現存するチェンバロ協奏曲は、いずれもヴァイオリンまたは他の楽器のための協奏曲から編曲されたものである。この協奏曲 イ長調の原曲は、調性と音域の点からオーボエ・ダモーレがソロ楽器として考えられる。オーボエ・ダモーレとは、イタリア語で「愛」のオーボエという意味で、ひょうたん型で出口のすぼまったベルの影響で、愛らしい音色が特徴。

J.S. バッハ作曲 チェンバロ協奏曲 ニ短調 BWV1059

Allegro · Andante · Presto

冒頭 9 小節のみ残されているが、教会カンタータ第 35 番と似ていることから、そのカンタータのシンフォニアとアリアを組み合わせて一曲の協奏曲とした。伴奏にはカンタータと同じオーボエ 3 本を用い、第 2 楽章では、ソロをオーボエ・ダ・カッチャが担当する。イタリア語で「狩り」のオーボエという意味で、狩猟に使われていたホルンに形状が似ていることからこの名前で呼ばれている。両曲された管は、とてもいいびつでオーボエのようなダイレクトな響きはない。

W.A. モーツアルト作曲 ピアノ協奏曲 第 9 番 変ホ長調 KV271 「ジュノーム」

Allegro · Andantino · Rondeau Presto

1777 年に作曲されモーツアルト自身も度々演奏した作品。題名には、「ジュノーム」とあり、ジュノーム像へ献呈された作品と考えられていたが、最近では、舞踏家ジャン=ジョルジュ・ノヴェールの娘でピアニストとしても有能であったヴィクトワール・ジュナミ (Victoire Jenamy) を指すとされている。この曲には壮大な前奏がなく、2 小節目にはピアノがきらびやかにソロを取る。第 2 楽章は、弱音器を付けた弦楽器が柔軟なハ短調を印象付け、その中でピアノは自由に歌う。第 3 楽章は、ピアノが冒頭から可愛らしいリンドを演奏する。

W.A. モーツアルト作曲 オーボエ協奏曲 ハ長調 KV314

Allegro aperto · Adagio non troppo · Allegretto

1777 年作曲、イタリア人オーボエ奏者のフルレンディスのために作曲されたが、その後、名手フリードリヒ・ラムが 5 回も演奏した。1920 年代に発見されたオーボエ協奏曲 ハ長調と移調されたフルート協奏曲 ニ長調の 2 つのヴァーチョンが残されており、さらに、何かしらの原曲があったのだろうと考えられている。ラムが演奏したのはどのようなヴァージョンだったのか謎である。

(三宮正満)

使用楽器

バロック・オーボエ：三宮＆田村製作（2011年）1725年頃アイヒェントブフのコピー
オーボエ・ダモーレ：サンド・ダルトン製作（2004年）1725年頃アイヒェントブフのコピー
オーボエ・ダ・ガッチャ：アンリ・ゴアン製作（2014年）1725年頃アイヒェントブフのコピー
ロマンティック・オーボエ：カール・ゴルデ作 1840年頃 ドレスデン
チェンバロ：久保田彰製作（2000年）18世紀フレミッシュタイプ
フルテビアノ：ヘラート・タウンマン製作（2004年）1790年製作アントン・ワルターのコピー

